

関東支部会・栃木県鉄構工業会役員との交流会

10月26日(木)13時30分から栃木県の鬼怒川温泉ホテルにおいて第3回関東支部会が開催された。全構協の玉木副会長及び大橋事務局長を迎えて支部会のほか、栃木県鉄構工業会役員との交流会及び懇親会も開かれた。参加者は各都県理事長・会長10名、運営委正副委員長、各都県組合事務局長9名、栃木県鉄構工業会役員13名の36名であった。



冒頭、岸部支部長は「衆院選挙の結果現政権が維持されるので、鉄骨業界も比較的景気の良い状態が持続すると思われる」と挨拶され、支部会が始まった。今回の関東支部会は災害時相互支援協定の調印が主要テーマとなる。関東甲信越地方は昔から首都直下型地震、東北、野島沖、新潟、長野、東南海など個別に大地震が発生し、その地方では甚大な被害を被ってきた。

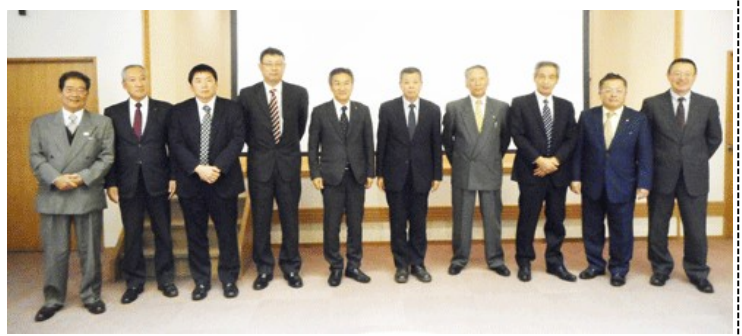
近未来にもこれらの大地震が発生する確率が高いといわれている。このため災害対策の準備を万全にしておく必要から東京湾岸3都県だけでなく1都9県の組合間で相互支援の協力体制を築く必要

があり、今回協定の締結の運びとなった。また、事務局長との合同会議では、各都県組合の決算状況からみて事業利益が赤字のところが多く、全構協会費の削減についての要望が事務局長会議から提案され、要望することになった。さらに全構協から要請のあるNDI-UTレベル1基礎講座の実施については各県の需要を把握することになった。

栃木県鉄構工業会役員との交流会では工業会の活動が報告され、特に五つの支部(県央・栃木・安足・塩那・芳賀)はそれぞれ毎月会合を

関東支部で災害時相互支援協定を調印

27年6月に東京湾岸3都県組合で締結した大規模災害時における相互支援協定については、首都直下型地震が発生した場合には湾岸3都県では共通して大被害を受けることになり、相互に支援することが立ちいかなることが想定されるため関東甲信越ブロック全体での相互支援の必要性から第一回支部会に提案し、全都県組合の賛成により本日締結調印することになった。内容は東京湾岸3都県組合の相互支援協定と同じとなっている。



開き、情報連絡や交換を活発に行っ



ていることが報告された。また、栃木から各県の共同積算システム物件報告が年々減少してきているデータが提示されて意見交換がなされた。情報を重視して報告数が多い新潟、栃木、長野と、物件が多く地域密着型で報告数の少ない茨城、千葉、東京、神奈川など各県での違いがあった。

18時からの栃木県鉄構工業会役員との交流懇親会には玉木副会長が参加され、途中のアトラクションでは栃木の理事も参加するシーズ☆スペシャルライブと銘打って軽音楽が披露され、拍手喝采を浴びて盛況裡に終了した。

## 役員会だより

10月19日(木)15時30分から組合事務所で10月役員会が開催された。

- ・災害対策の実効性を高めるために備蓄品の充実に対して組合ではその費用の一部について助成措置を行うことが決まり、合同支部会において内容が発表されることになった。
- ・5S運動の推進講習会は来年2月に実施され、会場はファブの工場に対してSBCグループの中山副代表を迎えて講義講評を行うことで、青年部が今後具体的な調整に入ることになった。
- ・新規組合加入促進についてはパンフレットが決まり、加入勧誘は各支部単位で行われるので、合同支部会時の各支部会で協議される方向となった。



## RJNグレード部会研修会

報告

10月21日(土)15時から組合事務所において「実物件における金物(階段・手摺等)製作の検証」をテーマとして



研修会を開催しました。参加者は11名でした。進行はディスカッション形式で行い、まず(有)太陽工機製作所の佐々木氏により納まりが特異な実績を手掛けた物件が数件紹介され、これらの製作上の要点を検証することで今後に生かしていこうとするもので、複雑な階段の分割位置・方法、現場取付がスムーズな取り合い形状、ササラ桁の切板発注に際しての注意点、亜鉛メッキ仕様の製作上の工夫、各所の溶接要領などの意見があり、各社の違いが確認されました。また、研修会後場所を変えて懇親会が行われ、さらなる情報交換をして散会となりました。なお、本年の忘年会は12月23日(土)に決まりました。[菅原]



## 合同支部会へのご参加をお願いします

日時 平成29年11月11日(土)～12日(日)

受付13時30分 開始14時

会場 箱根湯本温泉「天成園」

内容「神奈川県! どうしたい～この業界を?」

講師 千葉工業大学名誉教授橋本篤秀氏

- ・新技術の紹介
- ・賛助会員との交流懇親会

## 「関東支部共済会議」からの報告



10月20日(金)14時からアルカディア市ヶ谷で全構協共済事業者を交えて総勢32名にて関東支部共済推進会議が開催された。今回は2部制に変更し2部から事業者を加えての会議とした。1部より岸部(理事長)支部長も出席し「忌憚のない意見を」とのあいさつの後全構協、各県担当者25名にて全構築から共済事業の概要説明・各県の取り組み等意見交換等を行った。事前に取りまとめた主な意見として当組合澤田副理事長が塗料メーカーの価格について再度検討してもらいたい旨と生命共済の加入促進について意見を述べた。業者を加えた2部では、当組合の賛助会員のアマダマシンツール・大同生命・大日本塗料・ダイニッカが参加した。アマダマシンツール：販売開始したプロテクターエースは、今までより面がきれいに切れるようになった商品で勧めている。サンプルもある。消耗品で景気に左右されるが伸び悩んでいる。午後3時までの受注で翌日発送している。大同生命：澤田副理事長より提案されたように各県理事へのアプローチをしていく。理事から加入を勧めたい。加入促進PRのビジネスレポート(労働災害補償・ヒヤリハット等)を無料で提案している。大日本塗料&ダイニッカ：全構協から提示されている協定価格について高いと指摘を受けているのは承知している。今回値下げはしたが、50缶を目安として価格対応は個々にしているの、販売店へぜひ申し出て欲しい。

会議後、懇親会を行った。[小宮]

